

修士論文（要旨）

2026 年 1 月

高齢者と子ども世代の交流を促進させるためのスマートフォンの利用法に関する質的研究

指導 杉澤 秀博 教授

国際学術研究科
国際学術専攻
老年学学位プログラム
224J5002
肖 澤翰

Master's Thesis(Abstract)

January 2026

A Qualitative Study on the Use of Smartphones to Promote Intergenerational Interaction
Between Older Adults and Their Children

Zehan Xiao

224J5002

Master of Arts Program in Gerontology

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Hidehiro Sugisawa

目次

第1章 はじめに.....	1
1.1 研究の背景.....	1
1.2 先行研究の到達点と課題.....	2
1.3 研究目的と特徴, 意義.....	3
第2章 研究方法.....	4
2.1 研究対象と調査方法.....	4
2.2 インタビュー項目.....	4
2.3 分析方法.....	5
2.4 倫理的配慮.....	6
第3章 結果.....	7
3.1 分析対象者の概要.....	7
3.2 高齢者の分析結果.....	7
3.2.1 生成された概念, カテゴリー.....	7
3.2.2 ストーリライン.....	8
3.2.3 カテゴリー, 概念の詳細.....	10
3.3 子どもの分析結果.....	13
3.3.1 生成された概念, カテゴリー.....	13
3.3.2 ストーリライン.....	14
3.3.3 カテゴリー, 概念の詳細.....	15
3.4 総合結果.....	17
第4章 考察.....	20

謝辞

文献

第1章 はじめに

中国では2.64億人の高齢化が進み、スマートフォン利用に伴う「情報格差」が顕在化している。高齢者のデジタルリテラシー不足は世代間の相互理解を阻害し、心理的・文化的な隔たりを拡大させる深刻な社会課題となっている。先行研究では、スマートフォン利用が親子間のコミュニケーション促進に寄与する一方、SNSでの過干渉や監視による摩擦も指摘されている。しかし、高齢者と子どもの双方の視点から親子関係を包括的に分析した研究は十分に蓄積されていない。

本研究は、高齢者のスマートフォン利用が親子関係に与える両義的影響を、親子双方の視点からM-GTAを用いて明らかにする。その成果は、世代間の相互理解深化による家族関係の強化と、高齢者の社会的包摂促進に寄与する。

第2章 研究方法

2.1 調査対象と調査方法

本研究は、中国河北省石家庄市の都市部と農村部に居住する60歳以上の高齢者と実子の親子ペア15組（計30名）を対象に、半構造化インタビュー調査を実施した。調査は1回30～60分で、スマートフォン利用による世代間関係への影響を質的に分析することを目的とした。

2.2 インタビュー項目

本研究は、高齢者とその子どもの双方を対象に半構造化インタビューを実施した。高齢者にはスマートフォン利用状況や学習過程、親子関係の変容に焦点を当て、子どもには親のスマートフォン利用が家庭内関係に与える影響や「父母不可見」などの葛藤現象を中心に質問を構成した。

2.3 分析方法

本研究は、逐語録化したインタビューデータに修正版グランテッドセオリーアプローチを適用した。親を対象とした研究については、分析テーマを「スマートフォン利用による子どもとの交流プロセス」、分析焦点者を「スマートフォンを活用して子どもとのコミュニケーションを図っている高齢者」とした。一方、子どもを対象とした研究については、分析テーマを「ス

スマートフォンを介した親との交流プロセス」，分析焦点者を「高齢者とのコミュニケーションを図っている子ども」とした．以上の分析結果を踏まえ，スマートフォンを通じた親子間コミュニケーションの相互作用的なプロセスを明らかにするため，分析テーマを「親のスマートフォン利用による親子の交流プロセス」と設定し，分析焦点者を「スマートフォンを活用してコミュニケーションを図っている高齢者とその子ども」とした分析を行った．

2.4 倫理的配慮

本研究は桜美林大学・桜美林大学大学院の倫理審査委員会の承諾（倫理審査番号：25011）を得て行った．

第3章 結果

3.1 分析対象者の概要

インタビューの協力者のペアは15組であった．

3.2 高齢者の分析結果

分析では最終的に14の概念が抽出され，内容の近接性および意味的統合性に基づいて，6つのカテゴリーに整理された．6つのカテゴリーは【子どもによる利用への働きかけ】【使用過程における困難を自覚する】【スマートフォンの利便性・有益性の理解】【スマートフォンの積極活用による子どもとの交流の促進】【子ども世代の文化理解と軋轢の回避】【解消できない世代間のギャップの自覚】であった．

ストーリーラインは次のようであった．高齢者によるスマートフォン使用は，【子どもによる利用への働きかけ】を契機として開始されていた．高齢者がスマートフォンの利用を開始してからは，【使用過程における困難を自覚する】が不可避免的に生じていた．しかし，スマートフォンの利用を続ける中，高齢者は【スマートフォンの利便性・有益性の理解】をするようになった．その結果，【スマートフォンの積極活用による子どもとの交流の促進】を図るようになり，【子ども世代の文化理解と軋轢の回避】と【解消できない世代間のギャップの自覚】が図られていた．一方では，【解消できない世代間のギャップの自覚】も生じていた．

3.3 子どもの分析結果

分析では最終的に8の概念が抽出され，内容の近接性および意味的統合性に基づいて，4つ

の 카테고リーに整理された。4つの 카테고リーは【高齢者へのサポート】【子どもから見た高齢者がスマートフォンを使用することによるコミュニケーション様式の変化】【子どもから見た高齢者がスマートフォン利用を通じた高齢者自身の行動変容】【子どもから見た高齢者がスマートフォンの使用後の新たな問題】であった。

ストーリーラインは次のようであった。高齢者のスマートフォン利用は、【高齢者へのサポート】を起点として形成されていた。高齢者が基本的な操作を習得すると、【子どもから見た高齢者がスマートフォンを使用することによるコミュニケーション様式の変化】が生じていた。その結果、【子どもから見た高齢者がスマートフォン利用を通じた高齢者自身の行動変容】をするようになった。一方では、【子どもから見た高齢者がスマートフォンの使用後の新たな問題】も生じていた。

3.4 総合結果

両者の語りを分析では最終的に、2つの 카테고リーに整理された。

(1) 【高齢者のスマートフォン利用が世代間交流にもたらす作用プロセス】

この 카테고リーは〈高齢者へのサポート〉〈スマートフォンの積極活用による子供との交流の促進〉〈子どもから見た高齢者がスマートフォンの使用後の新たな問題〉であった。

ストーリーラインは次のようであった。高齢者側では、〈高齢者へのサポート〉を起点として形成されていた。この基盤は〈スマートフォンの積極活用による子供との交流の促進〉を促進する一方で、〈子どもから見た高齢者がスマートフォンの使用後の新たな問題〉を同時に内包するプロセスであることが明らかとなった。

(2) 【親子における役割変化プロセス】

この 카테고リーは、〈高齢者へのサポート〉で示される〈教育者として子ども〉、〈子どもによる利用への働きかけ〉で示される〈学生として高齢者〉、〈子どもから見た高齢者がスマートフォン利用を通じた高齢者自身の行動変容〉で表される〈友人としての親子関係〉であった。

ストーリーラインは次のようであった。親がスマートフォンを習得する過程において、子どもは〈教育者として子ども〉として位置づけられていた。一方、高齢者は〈学生として高齢者〉という新たな役割を引き受けていた。その結果、高齢者は家庭内において、従来の権威的な高齢者像や一方的に支援される存在から、子どもと対等にコミュニケーションを行う〈友人として親子関係〉へと役割が転換していた。

第4章 考察

本研究は親子双方の視点から、高齢者のスマートフォン使用が家庭内の世代間相互作用・コミュニケーションに与える影響を質的分析で検討した。結果、スマートフォンは単なるコミュニケーション手段ではなく、継続的な相互行為を通じて親子の調整過程に関与し、「つながり」と「葛藤」の両義性を持つことが明らかになった。高齢者の使用は子どもの支援・統制のもとで始まり、孤独感緩和や社会参加の手段となる一方、世代間の価値観差や情報判断の違いが新たな摩擦を生むことも示された。

本研究はインタビューに依存する方法上の限界や、家庭外要因の検討不足という対象範囲の限界がある。しかし、親子双方の視点に基づく質的分析により、高齢者のスマートフォン使用が親子コミュニケーションに与える複雑な作用メカニズムを明らかにし、今後の研究に理論的・実証的示唆を提供する意義がある。

謝辞

本研究の実施にあたり、調査にご協力をいただきました対象者に深謝申し上げます。本論文の作成にご指導賜りました桜美林大学大学院国際学術研究科の杉澤秀博教授、中谷陽明先生、長田由紀子先生に心から感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 中国国家统计局：2020 年第 7 次全国国勢調査（2021）.
(<https://www.stats.gov.cn/sj/pcsj/rkpc/d7c/>)
- 2) 周怡. 世代間ギャップ現象の社会学的研究. 社会学研究, (04), 67-79 (1994).
- 3) 李漢宗・単欣欣. 若者と高齢者間の世代間ギャップの起因と受容. 法制与社会, (07), 749 (2007).
- 4) 中国インターネット情報センター 第 55 回中国インターネット発展状況統計報告 (2025).
(<https://www.cnnic.net.cn/n4/2025/0117/c88-11229.html>)
- 5) 張穎. 中国家庭における世代間デジタル格差の現状と影響要因に関する研究. 湖南大学 (2021).
- 6) 王恩豪. 農村高齢者層のスマートフォン利用とその影響に関する研究. 鄭州大学 (2019).
- 7) 李曉童. 都市部高齢者の継続的社会化に対するスマートフォンの影響に関する研究. 山東大学 (2018).
- 8) 靳永愛・劉雯莉・趙夢晗ら. 短編動画アプリ利用と中高年層の生活—特別調査に基づく探索的研究. 人口研究, 45(03), 31-45 (2021).
- 9) 任振華. 中国都市部高齢者の WeChat 利用と社会適応・生活満足度との関係に関する研究. 厦門大学 (2018).
- 10) 梅海玲. 農村の空巢高齢者スマートフォン利用者のデジタルインクルージョンと再社会化に関する研究. 河南財經政法大学 (2022).
- 11) 陳程. 農村家庭における世代間デジタル格差問題に関する研究. 貴州民族大学 (2024).